

(1)

昭和21年7月10日第3種郵便物認可

東京国体

男女総合で18位

カヌーなど紀南勢活躍

東京都などで9月28日～10月8日に開かれた第68回国民体育大会で、県選手団は男女総合18位の好成績を収めた。大幅に順位を上げた昨年よりさらに3位上昇。13位だった1987年の沖繩国体以降、ここ26年で最高の順位となった。(11面に関係記事)

冬季大会(スケート、スキー、アイスホッケー)、会期前大会(水泳、ボート)を含めた成績。合計得点は990・5点で、目標の1025点には届かなかったが、目標順位には届かなかったが、目標順位には達成した。20位を切ったのは19位だった88年の京都市大会以来25年ぶり。2002年以降は37位だった10年を除いてすべて40位台と低迷したが、12年は21位と、11年の43位から一気に成績を上げた。

昨年より1競技14種目多い18競技75種目で入賞。昨年より2種目多い10種目で1位を獲得した。最も得点した競技はカヌーで90点。田辺市在住のロンドン五輪入賞者、阪本直也選手(県教育センター学びの丘職員)が成年男子カヌースプリントのカナディアンシングル200㍎と500㍎で2連覇を果たした。田辺工業高校や神島高校の生徒、南紀高校教

員らも入賞するなど、紀南関係者の活躍が目立った。ほかの競技ではフェンシング54点、セーリング52点、レスリング47・5点、自転車46点、水泳42点、アーチェリー42点などが目立つ。レスリングでは、上富田中学校出身の奥井真生選手(和歌山工業高校3年)が少年男子グレコローマンスタイル74キ級で3連覇を達成した。

県選手団総監督の星香里・県競技力向上推進課長は「選手が十分に力を発揮してくれた。各競技団体でも勝ちへの意欲が高まっている。2年後の紀の国わかやま国体男女総合優勝に向けて着実にステップアップできている」と話した。